

本朝永代蔵 初午に乗てくる仕合せ 井原西鶴

天道もの言わずして、国土に恵みふかし。人は実あつて、  
偽りおほし。その心は本虚にして、物に応じて跡なし。是、  
善悪の中に立て、すぐなる今の御代をゆたかにわたるは、  
人の人たるがゆるぎに、常の人にはあらず。一生一大事、身  
を過るの業、士農工商の外、出家、神職にかぎらず。始末  
大明神の御託宣にまかせ、金銀を溜べし。是、二親の外に、  
命の親なり。人間、長くみれば、朝をしらず、短くおもへ

ば、夕におどろく。されば、天地てんちは万物ばんぶつの逆旅げきりよ。光陰こういんは百はく  
代だいの過客かきやく、浮世ふせいは夢幻ゆめまぼろしといふ。時ときの間まの煙けぶり、死しすれば何ぞ、  
金銀きんぎん、瓦石がせきにはおとれり。黄泉こうせんの用ようには立たちがたし。然しかりと  
いへども、残のこして、子孫しそんのためとはなりぬ。